

総合分析

試験区分	一般
------	----

制限時間	60分 (理科 2科120分)	大問数	全 4 問
------	-----------------	-----	-------



出題分野

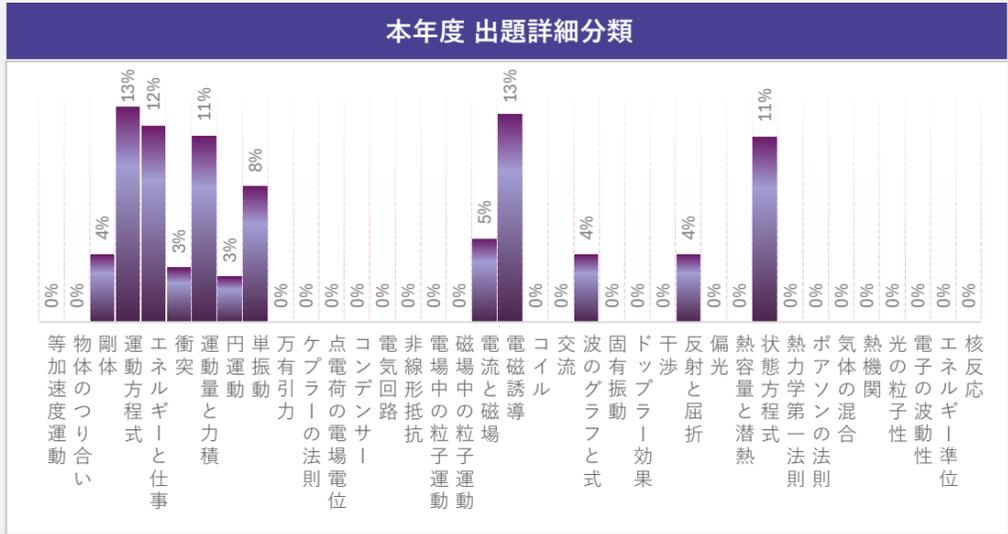
力学	55%
電磁気学	18%
波動	8%
熱力学	11%
原子物理	0%

本年度出題テーマ一覧

第 1 問	小問集合
第 2 問	弾丸がめり込みながら単振動する木片
第 3 問	気体と光子気体の球容器内運動論
第 4 問	導体棒の電磁誘導

本年度 解答形式

選択肢	67%
論述	33%



特殊問題の有無	近似計算あり	グラフなし
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算あり

特記事項 例年に比してもやや難しく、やや多い

総合評価

難度	3.9	最難を 5 とする問題自体の難度	やや難しい	一次合格に必要な正答率 (予想)	66%
分量	74分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	やや多い	標準	

入試の特徴と対策
 ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。

入試から見る大学が求める学生像
 高校生に厳しい難度の現象については解答方針の誘導があるが、誘導をその場でしっかり理解して解き進めるための十分な時間はない。奇問珍問の類はなく典型的な出題だが、高得点をとるには成熟した物理の能力が問われている。微分積分を使った考え方に慣れておくことが望ましい。総じて学んだことを理解するだけでなく、その場に応じて素早く的確に使いこなす能力が問われている。おそらくは臨床医としての資質を試す意図があるのだと考えられる。